

令和元年7月24日

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
会長 小川郁男 様

施設名 あげお愛友の里
氏名 宮河 恭介

研修会報告書

研修会名	相談関係職員研修会～地域にひらかれた老健を目指して 人と人とのつながりを大切にする～				
日時	令和元年6月18日(火)10:00～16:00				
会場	県民活動総合センター セミナー室201				
講師	岩槻ライトケア 磯村知美氏・高齢者ケアセンターゆらぎ 木村瑞樹氏 ハーティハイム 藤本武史氏				
参加人数	46名				
研修委員 (氏名・施設名)	宮河恭介(あげお愛友の里)・藤本武史(ハーティハイム)・永井千恵(あすかHOUSE松伏) 中台衣久美(高齢者ケアセンターゆらぎ)・吉野まどか(小江戸の郷)・有江隆浩(いぶき) 磯村知美(岩槻ライトケア)				
研修会のテーマ	自分自身の支援を振り返る				
研修会の評価	アンケート回収枚数	46 枚	3. グループワーク	4.6 / 5	
	1. 研修内容と目的の一致	4.1 / 5	4. 研修会の進め方	4.5 / 5	
	2. 講義に対する評価	①	4 / 5	～総合評価点～	27 / 30
		②	5 / 5		
③		5 / 5			
④		/ 5			
総 評	(研修会開催後の反省会での内容や研修委員としての感想等を記述)				
	2019年度の第1回の研修は、老健経験年数3年未満の方を対象に支援相談員、施設CMを対象とし、「自分自身の支援を振り返る」ことをテーマに研修を実施しました。参加者の特性として顕著だったのが、経験年数の少ない方の多さでした。元々、3年未満の方を対象としていますが、参加予定者46名中41名が3年未満でした。さらに他職種・他業種から転換した方も多く、ソーシャルワークの知識・技術について、この研修で初めて学ぶ方も少なくない印象がありました。				
	午前は、県内の支援相談員の方に講義を依頼し、それぞれの立場から支援相談員として大切にしてきたこと、考えてきたこと、苦労したこと等をお話いただきました。3名の講師の方も現在、支援相談員として従事しているため、未経験者にとっては、これから支援相談員として従事していく中での心構えや自覚の形成に繋がる内容であったと感じます。実際の経験からエピソードも話して頂いたため、参加者には伝わりやすい内容でありました。そのため、アンケート結果でも記載しておりますが、多くの気づきに繋がったり、今後のモチベーションの向上になったのではないかと思います。				
	午後は、グループワークを中心として、参加者の今まで支援について、他の参加者とも意見交換を行いながら、振り返りを大事にしながら進めていきました。地域包括ケアや介護保険といった制度は変化していますが、その中でも支援相談員や施設CMとして大事にしていかなければならないことや忘れてはいけないことの共有を研修参加者全員で確認できたのではないかと考えます。				
	今後の研修の課題として、経験年数にあった研修体系の構築や施設CMを対象とした研修を行ってほしいとの声がありました。相談関係職員研修会で対応すべきであるかの検討が必要ではありますが、そのような意見も大切にしながら、研修を組み立てていければと思います。				

* アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。